自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方が何が出来るのか、何がしたいのか常に見守り、声を掛け、心の思いに近づけ添えるように関わりを持ち、記録やミーティングを通して理解を深め共有化に努め実践に繋げていけるようにしています。	利用者が地域の中で自分の家で暮らすのと同様な生活を送ることが出来るよう、管理者職員とも日々の個々の業務を通し様々なミーティングの中で常に、その意識を念頭に置いて業務を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に毎日出掛けご近所との雑談をしたり、おもちつき大会では地域の方を招待し、町会からは盆踊りに招待されています。市民センターでのサークル活動に参加されたり、ボランティアの参加もあり交流を深めています。	利用者が散歩の折に近隣の方と会話を交わしたり、お花のやり取りをしたり、盆踊りや地域のサークル活動へ参加しています。ホームで行うもちつき大会に地域の人を招待して交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者支援連絡会の一員として情報提供と見学会を行いグループホームを知って頂き、入居者が元気に明るく生活している様子を見て頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事へ参加して頂きながら報告会をしたり、避難訓練の協力をお願いしたり、地域の施設として気軽に交流出来る様に顔見知りの関係作りに活かしています。前回はホームでの看取りの実際をご報告しました。	運営推進会議は家族・職員、民生委員等にも参加してもらい昨年は2回実施しました。当ホームでの看取りの実例を報告したり、参加者からは震災や徘徊の話での近隣の協力体制の話も出ています。ホームへの理解と協力を訴えています。	運営推進会議は外部の方にホームの運営や実情を知ってもらい、ホームのよりよい運営やサービスの在り方について外部の目による意見を聴く恰好の機会です。2ヶ月に1回以上の開催が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町会には運営推進会議への参加を呼びかけ、お祭りの参加や、お餅つき大会のお誘いをしています。介護相談員の受け入れを通し市とのつながりを深めているところです。高齢者支援連絡会の参加協力をしています。	市との連絡は、市の担当者が当ホームに直接来ることはなく、介護保険担当者との電話連絡や介護相談員を通して行っています。	地域密着型サービスでは、市の理解や支援が必要なことも多く、そのためにはホームの実態を知ってもらい、情報の共有が大切と思われます。その意味でより積極的なアプロ―チが期待されます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゆったりとした自由な暮らしと、穏やかで安らぎのある暮らしを実現するために、家庭的で開放感のあるホームを作り、玄関の施錠はしていません。ベランダで布団を干したり、花壇のお花を見たり草むしりをしています。	玄関を始めテラスなども夜間以外は施錠されることなく「身体拘束をしない」の意識の徹底のため、常に、見守り、声掛けを実践して留意している状況が伺えます。又近隣の方の協力も得られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修での学びの中で、それぞれの利用者とスタッフの関係性を見直し、ケアに行きづまることのないようスタッフ同士声を掛け合い、チームケアの実践に心掛けています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に、成年後見制度を利用された方が居て、研修を受けながら理解を深め、入居者が困っていることや出来ないことに対して、後見人との間に立ちながら問題の解決に取り組んできました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人が馴染んでいかれるか見学に来て頂き、初回の面談や自宅訪問など数回にわたり説明しご理解して頂き、ご本人が納得出来る様に支援しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のアンケートより、ご意見を頂き、職員に周知し、改善すべき所をみんなで考えています。また、運営推進会議の開催や相談員を受け入れを通し、意見等を頂き運営に反映させています。	入口に意見箱も設置されているが要望は家族のアンケート、電話や日々の生活中で直接伝えられています。その都度スタッフで改善するところ等を話し合い介護サービスに反映しています。地域の環境整備にも参加しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の重度化により人員配置の強化や業務内容の見直しなど意見を取り入れ仕事のしやすい職場作り、関係作りに努めている。	時々職員の面接を行ったり意見の言いやすい関係がつくられています。利用者の重度化に対しては職員の要望を取り入れて、人員配置や業務内容の見直しを行い、調理専門の職員を入れたり、働き易い職場作りを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、個々の面談をしているため職員からの要望質問などが聞かれ、職場環境の改善に早期に取り組めるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護主任と一人ひとりのケアのチェックを行いその都度面談・指導に当たり、会議の中で検討し意識付けをしています。また、それぞれの適正を見ながら、内外の研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市GH協議会に参加し、交流会勉強会講演会などを通し、ケアの向上に努めています。又、ケアマネネットワークや小金原の高齢者支援連絡会にも参加し他事業種の情報交換等に役立てています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に皆さんとの出会いを大切に挨拶をしっかりと行い、まず顔を覚えて頂く様にしています。1対1での関わりを多く持ち、ホーム内だけでなく散歩や外出、入浴時など環境を変えながら会話を沢山しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護の時の状態をお聞きして、困っている事をホーム内で改善していけるようにご説明しています。面会の時には必ず声をかけ、ご要望を聞いています。なかなか面会に来られない方々も電話で連絡をとっています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同様に、お話を良く聞き、生活暦を参考に馴染みのある事からケアに取り入れています。入所前のサービスと連携を持ちながら継続的な支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今日食べたいものを聞きながらお買い物をしたり、お出掛けしたい所や良く行っていた所に行くなど、ご本人の意向に添える様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出の同行をして頂いたり、入浴の声掛けや、食事介助などもご家族にもケアの参加を促して、共にご本人を支え方向性を考えています。行事への参加を呼びかけ、家族同士の交流と家族会の立ち上げに取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達からの連絡や面会など、いつでも受け入れています。場所に関しては、少しずつ馴みの場所を増やし、同じスーパーへ行きお顔やお名前を覚えて頂いています。また、近所の美容室にも出かけています。	近所の行きつけの美容院に職員に見守られながらひとりで出かけたり、スーパーに希望の物を職員と一緒に買いに行ってます。近所の友達が面会にいらっしゃる方もいます。又家族の協力で野球観戦、映画鑑賞なども行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席に気を配ったり、ソファーでも少人数で交流できる様にしている。利用者同士の会話も多くねぎらいの声掛けも聞かれます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に行事に参加して頂いたり、遊びに来て頂いたりしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、食べたいものを聞いたり出掛けたい所を聞き、実現に結び付けています。温泉旅行や、映画鑑賞、野球観戦、ダンスパーティー等も希望に応えて来ました。	職員は利用者個々の意向の把握に努め、「利用者の今楽しんで行える事を実現したい」との思いで色々な活動を計画し、昨年は温泉旅行や日帰り旅行をしてます。室内ではダンスパーティ、ボランティアによる演奏会等季節ごとの様々な催しにも力を入れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用されていた介護サービス事業者からもお話を聞き、生活暦に関する話題を含め、情報収集に努めている。	,	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に日々の記録にもアセスメントを記入しながら把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が日々の記録や申し送りの中で問題や課題をまとめ、ケース会議で課題に対する意見をまとめながら、家族の意向や家族の協力を含め、スタッフの意識統一を図りながら充実させたケアに反映させています。	介護計画は直接利用者の意向や、家族の意見も聴いて、それをミーティングでスタッフ共通の情報として把握し、計画作成に反映させています。また、その見直しは3か月ごとに行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の記録をするだけでなく、実行しその結果を記録、それに対するアセスメントの記録にも努めている。他の職員は記録を読み、共有化をして次に繋げ、日々のケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化によりベッドや車椅子の導入を支援し、リハビリが必要な方には訪問マッサージを利用して頂いたり、個別の行事に対応し、看取りの介護では家族の付き添いをお願いし、居室でのお別れ会を実施しました。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力も得ながら、サークルへの参加や、地域の行事への参加をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が各入居者の健康状態を把握し職員に指示をしたり主治医に報告等をし、介護の中で健康管理に努めている。	基本的には看護職員が利用者の健康状態を把握しホームの主治医に報告相談をし、その管理のもとに支援を行っています。遠方のかかり付け医の場合は家族の協力を得て行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が職員に医療に関する勉強会を開き病気や症状の理解をすることで、注意深く観察し細かい変化に気付き、看護職員や訪問診療の医師に連絡し、早めの対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過を家族と病院に伝え入院までの支援をし、入院中の状態把握のため面会をしたりご家族との連絡を取りながら早期退院のための目標を置きながら、SWとの情報交換をし、早期退院をすすめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から事業所としての基本方針を説明し、ご家族との要望を踏まえ、終の棲家として援助しています。当ホームでの看取りをされたときの状態や流れをご家族にお話しそれぞれの看取りの場面を一緒に考えています。	契約時から終末期のあり方についての指針を説明し同意を得ています。昨年、「看取り」をした事例があり、家族の希望で、家族、職員の協力を得ながら家族葬の形で施設で「お葬式」を行い、利用者も参加し、終末期のあり方についての経験をしました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ行き応急手当の講習を受け緊急時の対応に備えています。誤飲の時の対応について繰り返し話をしたり、救急対応時の流れについても確認し掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣への呼びかけをし、消防署の協力の下、全員が外へ避難するなどの避難訓練と消火訓練を行なっています。	消防署と協力して避難訓練を実施しました。運営推進会議で、東日本大震災の話題になり地域での避難訓練に協力なども話し合われています。米、缶詰等は日常の食糧として大量の備蓄があり、非常食は準備されていない。	火災、地震など災害時に職員の誘導だけでは限界も考えられます。地域でも協力したいとの声もきかれているので地域住民を巻き込んでの避難訓練を行い、災害時の体制を整えることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を図り、人格の尊重はとても重視をしており、誇りやプライバシーを損ねないように職員全体で対応に配慮しています。	日常の業務の中で「声かけ」を重視し、勉強会も開いています。行動の前に利用者の思いを必ず聞いてから実行しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々への声かけを多くし何かしたいことなど探りながら、ケアに活かしています。毎月の外出・外食や、野球観戦に旅行や観劇などの希望を取り入れ個別でも対応しました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムもあり、体調を考えながら、一日の過ごし方などは気を配っている。リビングで皆さんと一緒に生け花やお茶会、塗り絵、折り紙、手芸、歌、読書など趣味を取り入れ活動を多くしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を大切に着て頂くために、衣替えやクリーニングの支援をしています。毎日お化粧される方や美容室でパーマをかける方など支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食全て手作りで一汁三菜を取り揃え単調にならないようにメニューを考え食べたいものを組み込んでいます。また、入居者が得意な調理などに参加し野菜を切ったり煮物をしたり揚げ物もしています。配膳・お茶汲み食器の片付けにも参加しています。	昼・夜は業者からの食材を調理して提供しています。職員は食材を説明して食へ誘い利用者からも「これは○○でおいしね」と職員と利用者が同じテーブルを囲み和やかな雰囲気で行われています。片ずけも、利用者が率先して楽しんで行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをし、状態を把握し不足にならないように好きなものや、食べやすいものを理解し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに努め、義歯の洗浄管理をしています。必要に応じ訪問歯科の導入をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の行かれる時間を把握し、しぐさや言動などから排泄のパターンを捉えています。機能訓練のためにも出来るだけトイレでの排泄に努めています。	ひとり一人の様子を見守りトイレでの排泄を大事にされています。失敗が多くなったら個々の排泄間隔を記録して時間に合わてトイレに誘う等の対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩、買い物などで体を動かし、水分摂取に努め、野菜を多く取り入れ工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を聞き、個浴にて、ゆっくり会話を楽しみながら入浴しています。リハビリのための温浴効果を考えマッサージや運動をしたり、足浴も取り入れている。	入浴は基本的には毎日午後に利用できるようになっていますが、利用者個々の希望を尊重して行っています。足浴マッサージ等はリハビリの必要な方に行っています。入浴を嫌がる方には、家族の協力も得ながら支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温湿度の調節、布団の調節に気を配り、生活習慣も考慮しながら、それぞれの睡眠の確保に努め、体調により日中の休息や医師との相談で内服等の使用も考え支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理、副作用など注意し、医師や薬局・薬剤師の説明指示を頂きながら、看護職と共に体調を確認しながら行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や洗濯・掃除の家事仕事など、役割を持ち生き生きと取り組まれています。時には、ビールなどを飲みながら夕食を楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は散歩とお買い物で毎日あり、毎月の外食と遠足なども取り入れ閉じこもりにならないように支援しています。玄関の施錠をしていないため、随時、外出・散歩に付き添い支援しています。	日常的な外出は基本的に自由にできる環境が整っています。職員が一緒に、散歩や欲しい物を買いに行っています。そのほか、利用者が楽しみにしている市内での外食会も毎月行っています。ストレス発散や気分転換の工夫がされています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物で使えるようにお小遣いを預かり、外出時に使えるようにしている。お菓子や小物を買われたり、お仏壇のお供え物と花なども買われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話の取次ぎをしています。年賀状のやり取りも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内やリビングや廊下に行事の写真、手作りの作品を飾り付けをして季節感を感じられるように努めています。月１回の生け花教室を開催し季節の花に触れ、リビングに飾っています。庭に咲く桜や鳥の声（うぐいす）なども鑑賞しています。又、ホーム内は床暖房が完備されています。	リビング、食堂、浴室、トイレ、廊下等の共用空間は清掃が行き届いて清潔です。廊下やリビングには最近の行事の写真が整理して楽しく掲示されてい まます。リビングにはこれから予定されている節分の飾り付けの準備がされていて、スタッフの気持ちが伝わってきます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつやソファや椅子などをが配置があり、少人数で集まれる空間・場所があり、個別に対応出来る様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室対応で全室床暖房対応です。畳の部屋もあり、布団かベットでの生活が選べます。居室は馴染みの家具や写真などが置かれ個別性のある雰囲気で過ごせるようにしています。自室でもテレビを見たり、読書をしたり、花壇や植木鉢のお花を世話をされたり、ベランダへの出入りも自由にできます。	個室には和・洋室があり、押入れ、クローゼットが付設されています。布団、ベッドのほか、各人の好みに応じて馴染みのある家具、写真等を飾って個々が居心地良く過ごせる場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は寝る所、トイレや洗面所は共同で使用する所で生活習慣を維持し、入居者同士が声を掛けながら助け合う場面が見られます。居室では、ベランダへ出て洗濯物を干したり、お花を見たり、草むしりをしたり、ご自分で布団の上げ下ろしをされる方もいます。		